

## 第4回京田辺市文化振興懇話会（会議録要旨）

日 時 平成26年12月25日（木）午後1時30分～3時00分

場 所 京田辺市役所 305会議室

出席者 <委員>真山会長、山本委員、潮委員、藤本委員、澤井委員、村中委員、青木委員、長田委員  
<市側>山口教育長、鈴木教育部長、西川教育部副部長、藤井教育総務室担当課長、前川社会教育・スポーツ推進課長、中川社会教育・スポーツ推進課担当課長、田原教育総務室企画係長、松本教育総務室主事、池上(株)名豊課長代理

### 1 開会

### 2 議事

#### （1）京田辺市文化振興懇話会中間まとめ（案）について

【会長】この懇話会は計画策定に向けての懇話会ではありますが、計画そのものは懇話会から出た意見をもとに、市が計画を策定するものとなっています。今日の中間まとめも、懇話会から出てきた意見を集約するとこのような形になるという報告です。これを市がどのように受け止め、理解し、計画に落とし込んでいくかは、今後のこととなります。

【委員】他市の施設に頼っていくのでは、京田辺市の文化が育たないと思います。京田辺市の中で、文化芸術などいろんなことが楽しめる、夢のある町になってほしいと思っています。将来の子どもたちにも、それが機会を提供することになります。現状の中で、精一杯のことをやっていると思いますが、将来の夢を語るのであれば、もっと積極的な前向きな計画を期待したいと思います。

【委員】このような現状があるから、懇話会でこのような意見が出たという理由づけがあれば、より伝わるのではないかと思います。施設を造るときに、説得力があるのではないのでしょうか。

【委員】音楽のプロフェッショナルなどを聞きたいと思うが、その一方で、趣味で楽しんでいる人もいます。そういう立場から、ばらつきのある意見があるので、そのあたりを整理したほうが良いと思います。

【会長】どのような施設が必要かと考えたときに、施設がないからと言って、市民の生活が大変なことになることはありません。一方で、市民が自分のまちで、文化に親しめる場があるというものを、どこまで市が準備をするのかという選択の問題だと思います。当然、趣味や楽しみでやっているような文化芸術活動の拠点は市内で充足されないといけないが、レベルの高いプロのコンサートを市内で充足すべきなのかは、議論の分かれ目になってくると思います。

【委員】箱があれば、気軽に皆さんが足を運ぶ姿を見ることができます。アンケート結果にもあったように、箱が憩いの場となり、今まで縁のなかった人たちも、活動するようになると思います。

【会長】文化振興は、ニーズを生みだしていくこともあると思います。今のことは重要な側面ではないかと思っています。記載されている文化施設のあり方については、必要だとも、無理するなと言うようにも読めるし、どちらなのかという表現になっていますが、このあたりは両方の考えがある中で、最終的には市の判断だと思います。

- 【委員】音楽関係の人の考え方と、展示する立場の考え方の相違があります。展示する立場で言えば、普段はコミュニティホールのようなところで活動できますし、大きいイベントは美術館を借りて行っています。音楽関係の人の気持ちは分かるが、そこまでホールの必要性は感じていません。今のままで十分だと思っています。演奏の環境を聞くと中央公民館で演奏するのはちょっと無理があることは分かりますが、ホールの必要性は価値観の違いで意見が分かれます。
- 【委員】我々は、文化について論じることが大事であって、純粹に語り合いたいと思います。維持費などについては、市民としては心配なところではありますが、市が我々の意見を集約した上で、出てくることはないでしょうか。将来的に私たちがここで語ったことが何年か後に大きな花を咲かせてくれたら、我々が語っている意義があります。
- 【会長】懇話会でホールの建設にお金がかかるという意見が出ると、施設の整備がしにくくなると思いますが、財政を考えて縮こまってしまうのは一般的だと思います。
- 【委員】300人、500人、1000人規模のホールがあって、稼働率から見ると500人規模が必要であるが、団体の活動を考えると、1000人規模が必要であるなどと書き方を修正した方が、分かりやすいと思います。
- 【委員】稼働率の観点では500人、本格的な音楽に耐えるホールだと1000人など、理由がどこにあるのかが分かるようにしていただきたいと思います。京田辺市で音楽を主とするホールをつくる場合でも、ただホールを作るというだけではダメで、どのような目的で、何人の人を満たすホールにするのかを決めないといけません。規模も設備も決まらない。判断基準として、懇話会では、このような視点があるということを示していくのではないかと思います。
- 【委員】本当に500人であったら稼働率がいいのかという疑問があります。中央公民館が限界に来ているというときに、新しいもの、変わるものとして捉えると、500人、1000人という数値は両方ありきで、どちらかという議論は難しいと思います。
- 【委員】中央公民館をコンサートで使ったことがあります。3か月前に予約が必要となり、使い勝手が悪い。本来コンサートホールのあり方としては、1000人規模の大ホールと、きちんとした中ホールがほしい。多目的であれば、別にある方がいいのではないのでしょうか。
- 【会長】500人、1000人でも、委員として意見を出されたものであります。実際に建設計画などを立てるときは、厳密な計画が必要になってくると思いますが、稼働率の観点で500人が必要という発言の背景は、1000人では稼働はしないのではという、アバウトな基準での議論であり、あくまで意見として出てきたものです。その程度でご理解をいただければと思います。
- 【委員】市内では新島記念講堂で1000人規模の第九のコンサートを行ったり、合唱祭を行っています。それ以外の詩吟や歌謡などの発表会は最大300人規模です。
- 【会長】自治体が設置している文化ホールもありますが、いかによいコンテンツを頻繁に提供できるかというようところで、文化施設を整備する方向性で固まってくれば、先進事例を調査をして、京田辺市ではどのくらいがいいのかを検討する必要があると思います。
- 【委員】京都や大阪からオーケストラを呼ばなくても、同志社女子大学の学生が子供達に鑑賞教室を行うことはどうでしょうか。いろんな発表の場で、市民の皆さんと連携をとった事業に結びつぐために、1000人規模の施設があれば、色んな場で色んな文化を、学生が市民に伝えることが出来るのではと思います。
- 【会長】本日は、中間とりまとめの案として、懇話会の考え方、方向性は論点ごとにまとめてあります。

根拠背景が書いてありますが、文化施設のあり方については、主な懇話会の意見のまとめ方に、追加が必要ではないかという指摘がありましたので、意見を踏まえて修正していただきたい。これを受けて、市がどのような考え方をしていくか、まとめていくかは、今後ということで、懇話会ではこのような考え方で文化振興計画をまとめていくという方向性を中間的に示したということとします。

(2) 京田辺市文化振興シンポジウムの開催について

(事務局から、京田辺市文化振興シンポジウムを開催する旨の説明があり、特段の質疑等はなかった。)

(3) その他

3 閉会